

燕大学第3回講座

大河津分水建設に尽力した 長善館の門下生たち



- とき 2021年10月2日(土)
- ところ 燕市栗生津公民館
- 説明 燕市長善館史料館
館長 横山 文一

大河津分水建設に尽力した
長善館の門下生たち

門下生たちを育てた長善館の教え

「大河津分水の建設」と「長善館の門下生たち」

1603

江戸

1868

明治

1912

大正

1833(天保4)年
長善館開校

1912(明治45)年
長善館閉校

1833(天保4)年 天保の飢饉

1868(明治元)年 北越戊辰戦争

1868(明治元)年 信濃川沿岸未曾有の大洪水

1870(明治3)年 大河津分水一次工事開始
(1875(明治8)年 工事中止)

1896(明治29)年 信濃川堤防決壊・横田切れ

1909(明治42)年 大河津分水2次工事再開
1922(大正11)年 大河津分水通水

長谷川鉄之進(勤王家)

高橋竹之介(勤王家・教育者)

竹山屯(医学者)

長谷川泰(医学者)

小柳卯三郎(政治家)

萩野左門(政治家)

大竹貫一(政治家)

小島太郎一(政治家)

和田悌四郎(政治家)

鷲尾政直(土木技術者)

桂湖村(漢学者)

鈴木虎雄(漢学者)

小柳司気太(漢学者)

初代館主

すずきぶんたい
鈴木文臺

1796(寛政8)年～
1870(明治3)年

粟生津村の
医師の次男

1833(天保4)年～
1870(明治3)年
館主38年間

「困っている人を救うために
学ぶこと」

漢学

教育方法

- ①勉強の基本は素読
- ②輪講・輪読
- ③先輩が教える都講制
- ④質問の奨励
- ⑤全寮制

2代館主

すずきてきけん
鈴木楊軒

1836(天保7)年～
1896(明治29)年

片貝村の医師の
三男・文臺の娘婿

1870(明治3)年～
1896(明治29)年
館主27年間

「実践躬行

学んだことを実行してこそ価値がある」

日本史

教師

すずきしえん
鈴木柿園

1861(文久元)年～
1887(明治20)年

楊軒の長男

1885(明治18)年～
1887(明治20)年
教師3年間

数学・英語

3代館主

すずきげんがく
鈴木彦嶽

1868(慶応4)年～
1919(大正8)年

楊軒の次男

1896(明治29)年～
1912(明治45)年
館主17年間

大河津分水建設に尽力した長善館の門下生たち①

高橋竹之介



勤王家・教育者

1842(天保13)年～1909(明治42)年【入門21歳】

長岡市中之島杉之森

「北越治水策」をまとめ、 山縣有朋、松方正義に直談判

- 戊辰戦争では、惕軒らと居之隊を結成。西園寺公望より「錦旗」を与えられ、先導役として各戦線で活躍。
- 戊辰戦争後は、中之島で誠意塾を開き、20年間で600人余りの人材を輩出。堀口大学の父で外交官としても名高い堀口九萬一らが学んだ。
- 1896(明治29)年「横田切れ」と、1897(明治30)年に信濃川で大洪水が発生。平生提唱してきた治水策に図解を付して「北越治水策」をまとめ、山縣有朋、松方正義に献策した。
- 山縣とは戊辰戦争で同じ軍官として活動し、関係を深めたと考えられる。
- 開塾してからは、治水策として、水源地(長野県)の山林伐採をやめること、大河津分水の利を強調して速やかに開削すべきこと、関屋分水路計画を発表するなど、一生涯を教育と治水対策に尽力した。

大河津分水建設に尽力した長善館の門下生たち②

大竹貫一

「横田切れ」の惨状を 政府に訴え続けた

- 県議会議員に7年、衆議院議員に34年間在任。大河津分水や刈谷田大堰の完成の他、県内大小河川改修改良事業に尽力した。
- 大竹が生まれた中之島は信濃川、刈谷田川、猿橋川に囲まれ、洪水が頻繁に発生。幼いころから惨状を目の当たりにしてきた。
- 「横田切れ」の後には政府を動かすべく、不眠不休で活動。内務大臣が視察した折には惨状を説明して建設を訴える。
- 越後平野と地形が似ている岐阜県、三重県を視察して報告書にまとめる。新潟新聞に5回にわたり掲載し、世論を喚起した。
- 大竹家は近郷60余りの村を統括する大庄屋で、治水と水害処理に全財産と精力を注いだ。



政治家

1860(万延元)年～1944(昭和19)年【入門12歳】

長岡市中之島

今につながる門下生

▶女優の大竹しのぶさんは兄弟の玄孫

大河津分水建設に尽力した長善館の門下生たち③

萩野左門



政治家

1851(嘉永4)年～1917(大正6)年【入門12歳】

新潟市西区板井

県議、衆議院議員として 政治の力で貢献

- 長善館に8年在籍。卒業後も長善館の相談役として、長期間にわたり運営に尽くす。
- 1879(明治12)年に28歳の若さで県議会議員に当選。のちに議長として活躍した。
- 1894(明治27)年に43歳で衆議院議員に当選し、15年間務めた。その間、大同団結運動を推進、進歩党・憲政党の新潟県幹事、栃木県知事、新潟市長などを歴任した。
- 政治活動の他、東北日報や新潟毎日新聞の創設、北越学館の創設に関わり、信濃川分水工事の起工や新川の掘削・改良にも大きく貢献した。

今につながる門下生

▶大竹貫一とともに内野の「大萩橋」(ウオロク近く)にその名を残す



大河津分水建設に尽力した長善館の門下生たち④

鷺尾政直

卓越した実務経験と民力で 治水運動を推進

- 新潟市黒鳥の庄屋で生まれる。
- 大河津分水の1次工事が始まると用弁係となる。1872（明治5）年より民部省に勤め、10年間、全国各地の土木事業に従事。測量をはじめ河川堤防に関する実務を通じて土木技術を身につける。この経験から「西蒲原郡治水起工議」を作成して提言した。
- 1881（明治14）年に洪水に苦しむ95町村の理解を得て、県に上申。堤防の危険個所の整備が始められた。
- 1882（明治15）年には、萩野左門、小柳卯三郎など門下生が中心となって、「信濃川治水会社」を起こす。「民力」の重要性を念頭に置いて治水運動を推進。
- 横田切れ以降は中断していた分水工事の復活を唱え、同志とともに活動した。



土木技術者

1841（天保12）年～1912（大正元）年
新潟市西区黒鳥

大河津分水建設に尽力した長善館の門下生たち⑤

小柳卯三郎



政治家

1843(天保14)年～1915(大正4)年【入門13歳】

新潟市西蒲区東中(中之口)

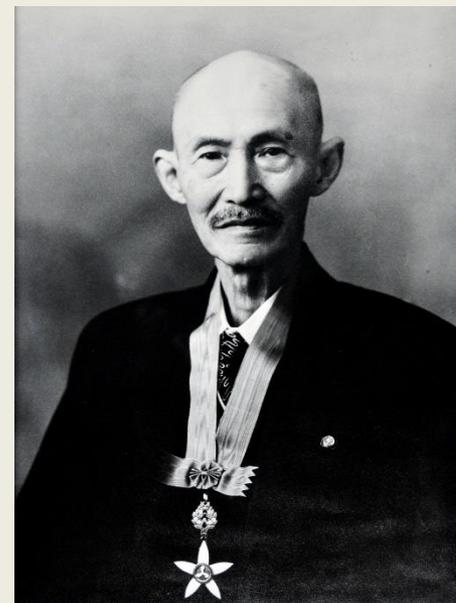
衆議院議員として有志達を援助 自らも地域で治水活動に貢献

- 1869(明治2)年に大河津分水の用弁係に就任。
- 県議会議員として3期12年間、衆議院議員として3期務める。この間に常に中断している分水再興請願の有志たちを援助する。
- 1889(明治22)年には市町村制初の中之口村の村長となり民政にも力を尽くした。
- 1896(明治29)年「横田切れ」の後、萩野左門らと共に上京して、政府の要人たちに建設を要望した。
- 新潟県治水会を組織して中心的に活躍。1907(明治40)年に明治政府による分水工事決定後も幹部として留まり、地域の治水活動に貢献した。

鈴木虎雄

新聞記者から研究者へ 中国文学・文化研究のパイオニア

- 惕軒の5男。
- 12歳で上京し、東京英語学校に入学。東京府尋常中学で杜甫の詩に出会い、生涯続く杜甫研究はこの時から始まる。東京帝国大学(現東京大学)に入学してからは中国哲学に傾倒。日本の外交問題にも関心を深め、自分の考えを漢詩に託して盛んに新聞に投稿する。
- 長善館の先輩の桂湖村の紹介により日本新聞社に入社。2年後、台湾日々新報社に転身して台湾で暮らす。海外での暮らしから新たに詩情がそそられ、多くの写生詩を創作した。
- 日露戦争が始まったことにより、日本に戻り、教育の道に専念。東京高等師範学校(東京教育大、筑波大学の前身)の講師、教授を経て、新設間もない京都帝国大学文科大学(現京都大学)に助教授として迎えられた。
- 『支那詩論史』は虎雄の代表作。中国の歴史を組織的に研究した世界最初の労作で、のちの文化勲章受章の対象となった。
- 杜甫の研究では、詩を全訳したのは虎雄以外に世界には存在しない。その注釈は難解な作品を少しの無駄もなく明快に解説され、未開拓の分野に先んじて取り組まれ、後の研究者への貢献は計り知れないとされている。

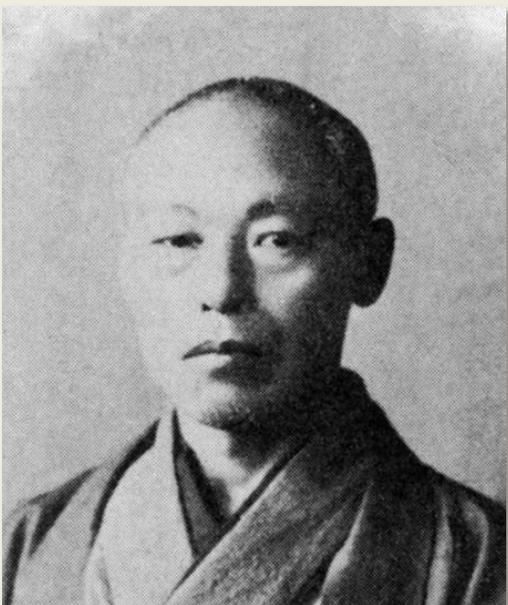


漢学者
1878(明治11)年～1963(昭和38)年
燕市粟生津

『支那詩論史』と文化勲章



桂湖村



漢学者

1868(明治元)年～1938(昭和13)年【入門16歳】

新潟市秋葉区

学会にショックを与えた 『漢学解題』

- 長善館に入門し、師範代を務める。その後、上京して東京専門学校(現早稲田大学)で英語を学ぶ。在学中より日本新聞社の漢詩壇選者として世に知られていた。同じころ、正岡子規は日本新聞社の俳句欄を担当していた。
- 漢学者、漢詩人として活躍しながら、哲学館(現東洋大学)、國學院(現國學院大学)、東京専門学校(現早稲田大学)で講義。1906(明治39)年には早稲田大学教授となった。
- 『漢学解題』を刊行。中国歴代の漢籍で日本に一般に流通しているものを「題名」、「作者」、「題意」などに分類し、詳細解題を加えたもので、1,000ページを超える大作。記述が公平で、文章も正確で、初学にも研究者にも長らく活用された。
- 森鷗外が図書頭に就任した際、大正天皇から詩を提出する旨の命があり、西園寺公望に相談したところ、湖村を紹介。以来漢詩の師弟関係になり、鷗外の戒名を授けるまでの深い関係を築いた。
- 陶器宝器を研究してこの道の権威者となり、鑑定に関しては当代随一。

小柳司気太

学生に人気の講義

昭和天皇にも御進講

- 東京大学漢学科第一回卒業生。卒業論文『宋学概論』は宋代の朱子学を中心に解説したもので、当時としては第一級の研究論文で学会に大きな反響を及ぼす名著と評された。
- 卒業後は新聞記者として出発するが、その後、学問研究の道に進む。山口高等学校の教授をはじめ、学習院大、東京大、国学院大、駒沢大、慶応大、立教大、二松学舎大の各大学で教授を務める。1929(昭和4)年には大東文化大学の学長になる。
- 老子、荘子をはじめ多くの東洋思想を研究し、関連著書も多い。『詳解漢和大辞典』、『新修漢和大辞典』の著者でもある。
- 人徳が高く、飾らない人柄で、教授内容は整然としていて、学生から高い人気を博した。1940(昭和15)年には昭和天皇にも御進講を行った。



漢学者・教育者

1870(明治3)年～1940(昭和15)年【入門16歳】

新潟市西蒲区高野宮

西洋医学の普及・発展に貢献①

長谷川泰



医学者

1842(天保13)年～1912(明治45)年【入門15歳】

長岡市福井

今につながる門下生

➤長岡の長谷川泰の銅像は長善館があった弥彦山の方角を見据えている。



「濟世学舎」を創設し、 野口英世、吉岡弥生らを育てた

- 千葉の佐倉順天堂で西洋医学を学ぶ。帰郷して長岡藩の軍医として活躍し、戊辰戦争では河井継之助の最後を看取った。
- 東京医学校(現東京大学医学部)に勤務し、医学行政の基礎を築く。1872(明治5)年には東京医学校の校長になる。
- 1876(明治9)年には「濟世学舎」を創設し、僅かな学費でも誰もが学べるようにした。明治時代中期までの西洋医の数はおよそ2万人で、その半数が濟世学舎の出身者とされる。その中には細菌学者の野口英世や日本女子医科大学を創設した吉岡弥生らも育てた。
- 衆議院議員にも連続3回当選し、国会でも活躍。
- 伊藤博文の依頼により内務省衛生局長(現厚生労働大臣)に就任し、伝染病研究所を国立に昇格させるなど、予防医学の体制構築や弱者救済のために手腕を発揮した。

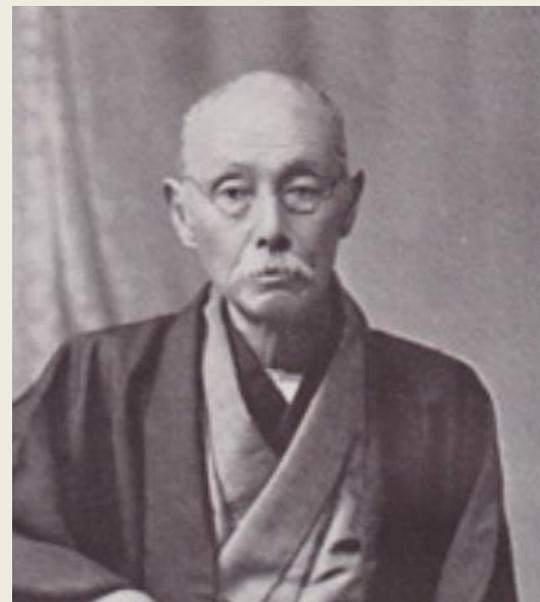
竹山 屯

新潟の医学の発展、 食生活の改善に大きく貢献

- 江戸で蘭学や医学を学んでから、長崎でオランダ人医師より理化学、内科、外科、眼科を修める。帰郷途中に、京都で官軍軍務管病院診療師を命ぜられ、西園寺公望に従って越後に入り、軍医として従軍。
- 明治維新後に新潟医学校(現新潟大学)の校長を務め、多くの医師を養成する。
- 明治天皇から眼病が多いことを気にされ、治療、予防のため尽力。眼科医養成のため、ドイツ語の『眼科提要』を翻訳したり、講習会などを実施したりして眼科医を養成した。
- 食生活改善のため肉食、牛乳を薦めて県民の食生活の改善に努めたり、予防医学に力を注いだりした。
- 後に竹山病院を開設する。

今につながる門下生

➤肉食、牛乳の普及活動もあって、イタリア軒の開店を支援



医学者

1840(天保11)年～1918(大正7)年【入門7歳】

燕市熊森

地域住民の生活を向上①

和田悌四郎



※日枝神社(燕市粟生津)にある胸像

政治家

1856(慶応元)年～1940(大正15)年【入門15歳】

燕市粟生津

粟生津開発の

歴史に残る名村長

- 新潟市新津の桂家の生まれで母の実家粟生津の和田家を継ぐ。
- 教職に就いた後、32歳から粟生津村長に迎えられ、40年余り終生村政に尽くす。
- 農業や農家経営を指導し、粟生津村を納税率が高い模範村にする。
- 義務教育の振興、青年婦人社会教育、神社、図書館、土地改良事業などにも尽力した。
- 休む間もなく働く姿は、役場職員の眼から「神の再来」と映り、村人の発議によって銅像が建設された。

地域住民の生活を向上②

小島太郎一

抜きんてた調整力で 治水事業をまとめあげる

- 惕軒に学び、彦嶽と同年という縁もあり、先生から不断に教えを受け、長善館の師範代を長く務めた。
- 31歳から県議会議員を5期務め、議長にも就任。抜群の裁量で紛糾する県議会を裁き、名議長とうたわれた。
- 全国的に先駆けた耕地整理では、横田切れで荒れた田を12年間かけて332町歩の美田を生み出した。
- 大河津分水閘門の設置や、西蒲原郡上郷地区に水害予防組合を設置したり、利水や治水関係事業では、萩野左門、大竹寛一らとともに大きく貢献した。



政治家

1868(明治元)年～1920(大正9)年【入門6歳】

燕市粟生津

大河津分水建設に尽力した
長善館の門下生たち

門下生たちを育てた長善館の教え

「大河津分水の建設」と「長善館の門下生たち」

再掲

1603

江戸

1868

明治

1912

大正

1833(天保4)年
長善館開校

1912(明治45)年
長善館閉校

1833(天保4)年 天保の飢饉

1868(明治元)年 北越戊辰戦争

1896(明治29)年 信濃川堤防決壊・横田切れ
1909(明治42)年 大河津分水2次工事再開
1922(大正11)年 大河津分水通水

1868(明治元)年 信濃川沿岸未曾有の大洪水
1870(明治3)年 大河津分水一次工事開始
(1875(明治8)年 工事中止)

長谷川鉄之進(勤王家)

高橋竹之介(勤王家・教育者)

竹山屯(医学者)
長谷川泰(医学者)

小柳卯三郎(政治家)
萩野左門(政治家)

大竹貫一(政治家)
小島太郎一(政治家)
和田悌四郎(政治家)

鷲尾政直(土木技術者)

桂湖村(漢学者)
鈴木虎雄(漢学者)
小柳司気太(漢学者)

初代館主

すずきぶんたい
鈴木文臺

1796(寛政8)年～
1870(明治3)年

粟生津村の
医師の次男

1833(天保4)年～
1870(明治3)年
館主38年間

「困っている人を救うために
学ぶこと」

漢学

教育方法

- ①勉強の基本は素読
- ②輪講・輪読
- ③先輩が教える都講制
- ④質問の奨励
- ⑤全寮制

2代館主

すずきてきけん
鈴木楊軒

1836(天保7)年～
1896(明治29)年

片貝村の医師の
三男・文臺の娘婿

1870(明治3)年～
1896(明治29)年
館主27年間

「実践躬行

学んだことを実行してこそ価値がある」

日本史

教師

すずきしえん
鈴木柿園

1861(文久元)年～
1887(明治20)年

楊軒の長男

1885(明治18)年～
1887(明治20)年
教師3年間

数学・英語

3代館主

すずきげんがく
鈴木彦嶽

1868(慶応4)年～
1919(大正8)年

楊軒の次男

1896(明治29)年～
1912(明治45)年
館主17年間

私塾「長善館」とは

幕末の漢学塾

長善館は、1833(天保4)年、鈴木文臺ぶんたいによって創設され、文臺、惕軒けん、柿園しえん、彦嶽げんがくの4人の先生が、1912(明治45)年に至るまで約80年にわたって、優れた人材を教育した私塾である。

長善館の名前は、初代館主文臺が中国の礼記に「善を長ず」=教育は人の善いところ伸ばし、欠点を救う業であると説かれているものから命名した。

漢学(四書五経)などを使用して指導者の心構えなどを中心に教えていた。さらに、2代館主惕軒は日本史などの歴史を加えた。教師柿園、3代館主彦嶽の頃は時代の趨勢に即して、英語、数学なども教科に加えた。

門下生は1,000人を超えるとされ、地元燕市はもとより三条市、長岡市、新潟市など広範囲の地域に及んでいる。

1889(明治22)年、明治政府より

「都鄙(とひ)にまれなる塾にして、北越文教を振興したるもの」

として賞賛されている



1881(明治14)年に惕軒が新築した塾舎の模型

門下生たちを育てた4人の先生たち①

初代館主

すずきぶんたい
鈴木文臺

1796(寛政8)年～1870(明治3)年

粟生津村の医師の次男

1833(天保4)年～1870(明治3)年
館主38年間

困っている人を救うために学ぶ
のだとリーダーの心構えを教えた

- 文臺は、6歳にして父より唐詩選の素読を習ったことが勉学のはじまり。熱心な勉強ぶりと才能から、父と親しい隣村の庄屋・解良家から蔵書を全て貸与された。
- 19歳の時に上京し、解良家の経済支援と良寛の推薦により著名な儒学者の講座を聴講したが、既に深い学問を積んでいたため満足できず、独学の道を選ぶ。この頃からとった勉強方法は、図書館の書物を借りては書き写すというもの。
- 22歳の時に母の病気が重いと知らされ帰郷。その後は、牧ヶ花、寺泊などで子どもを集めて講義をしながら、自信も書物を読んだり、各地の私塾を訪問したりし、さらに研鑽を重ねた。この頃に良寛との交流も上京前にまして盛んに行われた。
- 38歳の時に長善館を開いた。個性を伸ばす教育を最も重視し、中国の古典を教科書に使い、聖賢の教えである知育と徳育を教えた。

良寛も
その才能を
絶賛

文臺が18歳のおり、先の庄屋で論語などを講義し、それを聞いた良寛は「この子は将来大成するだろう」と褒めたたえ、以降国上山の五合庵で交流を持った。

文臺は良寛から慈悲の心、平等の心、公平無私の心を受け継いだといわれる。

門下生たちを育てた4人の先生たち②

- 惕軒は、8歳から片貝の耕読塾で学び、15歳から長善館に入門し、文臺に学んだ。23歳の時に緻密で篤学だったことが文臺に認められ、次女菊子と結婚して跡継ぎとなった。
- 35歳の時に文臺が亡くなり、2代館主として後を継ぐ。文臺の学風を継承するとともに国史、算術を教科に加えた。長善館はますます隆盛となり、塾生も増加していった。
- 1881(明治14)年には旧館だけでは狭くなったので新館を増築する。
- 「我が館の教育の主眼とするは、いたずらに書を読み、学を講ずるのみではない。主眼とし目的とするものは、これを実践し運用することにある」と塾生に示し、「実践躬行」を学是とした。
- 戊辰戦争では、長谷川鉄之進らとともに、居之隊に加わって尊王攘夷運動に身を挺して、新政府軍に協力する。
- 「新しい時代には新しい教育が必要になる。漢学にとらわれず、維新後の国造りに適合した教育に向かわなければならない。」という視点から、長男柿園を東京で学ばせた。
- 1889(明治22)年に長善館が明治政府より表彰を受ける。惕軒自身も多くのことから「越後屈指の私塾経営者」として評価を受ける。

実践躬行

学んだことを実行してこそ

価値があると説いた



2代館主 すずきてきけん
鈴木惕軒

1836(天保7)年～1896(明治29)年

片貝村の医師の三男・文臺の娘婿

1870(明治3)年～1896(明治29)年
館主27年間

門下生たちを育てた4人の先生たち③

- 柿園は、17歳で上京し、啓蒙思想を学ぶ。22歳の時に父惕軒の眼病が重いという知らせを受けて一時帰郷するが、一層の学力向上と指導技術の体得を目指し、再び上京。この時に弟彦嶽も同行する。
- 東京での遊学を終えて帰京すると、父惕軒を助け、教師として塾生を教える。時流に合わせた数学科と英語科を新設する。先進的な学問内容と優れた指導内容・方法が伝わり、遠くからも塾生が大勢来るようになり、塾生がわずか半年足らずで倍増した。
- 1886(明治19)年に結婚したが、翌年に病気にかかり、27歳の若さで亡くなる。

すずきしえん
教師 鈴木柿園

1861(文久元)年～
1887(明治20)年

惕軒の長男

1885(明治18)年～
1887(明治20)年
教師3年間



外国に負けない国づくりを目指して 明治に生きる若者を鼓舞した



すずきげんがく
3代館主 鈴木彦嶽

1868(慶応4)年～
1919(大正8)年

惕軒の次男

1896(明治29)年～
1912(明治45)年
館主17年間

- 彦嶽は、兄柿園の影響で勉学への希望が強くなり、兄柿園に同行して17歳で上京。当時、私塾の経営は芳しくなく、息子2人を同時に上京させることは、父惕軒にとって一大決心だった。
- 兄柿園が亡くなったため、館主を継ぐことになる。1899(明治32)年に中学校令が改正されると、県内にも中学校が建ちはじめ、中等教育が普及したため、1912(明治45)年に80年間続いた長善館を閉じることを決断する。
- 閉館した後も夜学を開いて勤労青少年の教育に当たったり、巻中学校で講義を担当したりする。1915(大正4)年には、粟生津郵便局の初代局長を務める。

ユニークな学校規則と禁止事項

学校規則

- 一 朝は早く起き夜の課業は亥の刻まで。年少者は除く。
- 二 授業を受ける時は口を漱ぎ手を洗うこと。
- 三 午前は袴をつけること。
- 四 午前は素読が終わった後、線香一本灯る間は休み。
- 五 昼食後は線香半分休み、午後二時ころ線香一本休み。
- 六 一の日は詩作会の後、午後髪をとかして入浴する。
- 七 六の日は復読と輪講。

禁止事項

- 一 本を散乱させない。
- 二 言い争いや雑談をしてがやがや騒がない。
- 三 立ち居振る舞い言葉遣い、粗暴な行動や不遜な態度で他人の勉強を妨げない。
- 四 本と筆や墨、紙のほか、学業に無用な玩具などを買わない。
- 五 他人の手拭、履物、衣類は勝手に使用しない。
- 六 来客には当番以外は挨拶するだけで学業に励むこと。但し親しい客は別である。

当番の仕事

- 一 朝と夕方、2度清掃する。
- 二 朝と夕食後、お茶を出す。
- 三 行灯を掃除し、点灯する。
- 四 お客の接待をする。
- 五 庭を掃除し、縁板を拭く。

学習効果を高めた教育方法

■ 勉強の基本は素読

文臺は素読の時間を大事にした。素読は先生に合わせて読むことから始まる。何度も唱えているうちに、なんとなく内容が分かるようになってくる。「読書百遍、意自ずから通ず」と言う。

また、暗記することに加えて筆記もすすめる。声に出して復唱し、文字を書きながらまた唱える。そうすると記憶は脳により強固に蓄積される。自力で勉強をすすめて分かり、喜びと自信を得て、意欲を高めていった。

■ 輪講・輪読

前もって学習しておいて、自由勉強も含めて順番に講義する時間。質問あり、意見あり、論争ありで、刺激しあい競い合う若者の姿が目に見えるようで、この時間はよきライバルを育てた。しっかり聞きとること、考えをまとめること、励みあうことなどを通して、人格や徳性を磨いた。

■ 先輩が教える都講制

先生が全ての塾生を見切れない。勉強の進んだ先輩が後輩を見てやる。先生の代理を務めることは大きな誇りになる。互いに競争心に燃え、一段と熱がかかる。教えることは再び学ぶことで勉強の見直しにもなる。

また、後輩にとっては憧れの先輩に勉強を見てもらう。お世話になったその気持ちが卒業後にも持ち越されて、成人後にも同窓生の協力関係が各地で見られる。

■ 質問の奨励

学習過程に質問の時間を設けた。積極的な学習態度を育てるために意図的に設定した時間。時にはいい質問だと学習ぶりが褒められ、向上心を満足させて活気のある塾になっていく。

■ 全寮制

館主は、学問を教えるだけでなく、寄宿舎生活全体を通して人間的な繋がりを深め、師弟一体となって人間形成に大きな役割を果たす。先生が頑張っている姿を生徒が見る。徳のある日々の生活態度、老いてなお学問に向かう姿勢は、共に暮らす生徒の精神に大きな感銘を与える。

また、友の行動から気付かされることもある。日夜寝食をとるにこの生活は、知らず知らずに人間の幅を広げ、人格の形成に役立った。

長善館流カリキュラム

長善館カリキュラム

漢学予科	漢学予科		第一 年		第二 年		第三 年		第四 年		第五 年			
	下 級	上 級	五 級		四 級		三 級		二 級		一 級			
	素 読	孫子正文 中、下 毛詩正文 各全	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
漢学科	合刻四書 論語正文 孟子正文 各全	孫子正文 中、下 毛詩正文 各全	日本外史 5冊	国史略 全	十八史略 一ヨリ4冊	蒙 求 全 日本文章規範 一・三	史記列伝 4冊 正文文章軌範 全	左 氏 伝 五ヨリ6冊 統文章軌範 全	八 家 文 一ヨリ5冊 戦国策 一ヨリ6冊	八 家 文 六ヨリ5冊 韓 非 子 一ヨリ5冊	八 家 文 十一ヨリ終 韓 非 子 六ヨリ終	大 中 孫 子 各 全	学 庸 子 子 各 全	
	修身口授		皇朝蒙求 上	皇朝蒙求 中、下	統 蒙 求 全	左 氏 伝 4冊	趙 孟 子 全	論 語 集 解 全	毛 詩 鄭 箋 2冊	毛 詩 鄭 箋 終マデ	尚 書 孔 伝 上	尚 書 孔 伝 下		
	前言往行	同上												
	習 字	同上	楷	楷、行、草										
	作 文	尺 牘	尺牘、記	尺牘、記	記 事	記 事	書 説	書 説	説 論	説 論	説 論	説 論	序 跋	
	地 理	同上	外 史 六～終	統国史略 全 統々国史略 全	十八史略 五ヨリ終 統十八史略 全	劉 向 新 書 全	綱鑑易知録 20冊	綱鑑易知録 28冊	世 説 全 荀子全	戦 国 策 七ヨリ終 国 語 全	資 治 通 鑑	前 期ノ続キ		
	日本地誌要略 卷、式	同上												
			綴字 エプスター 綴字書		会話 口授	会話 口授	会話 口授	会話 口授				訳読 ゴルドス ミッス ビガー、ニー ド ケルファスト、 ヘッドレックス ミル 代議政体	訳読 キルソン 英文学 エマーソン 文明論 ベンサム 道徳及立法	
英学科			書取訳読音読 ナショナル 第一、二読本	書取訳読音読 ナショナル 第三読本 モーレー 地理書	書取訳読音読 ナショナル 第四読本 パーレー 万国史	書取訳読音読 グードリッチ 英国史 ナショナル 第五読本	書取訳読音読 ユニオン 第四読本 スキントン 万国史	書取訳読音読 チャムパー 第五読本 フェリス クレート、 リーダーズ	訳読 ジョンソン ラセラス スマイル 自助論	訳読 マコーレー フレデリック 大王伝 スペンサー 教育論				
			習字 スベンセリヤン 習字本 二、三	習字 同上 四、五	文法 クワッケンボス 小文法書	文法 スキントン 小文法書	文法 スキントン 小文法書	文法 スキントン 大文典	文法 スキントン 大文典	文法 ベイン 小文典				
							作文 口授	作文 口授	作文 口授	作文 口授	作文 口授	作文 口授	作文 口授	
数学科			算術 加減、乗除 分数、少数 口授	算術 諸比例 百分率 口授	算術 開方、級数 求積 口授	代数 整数、分数 四則 口授	代数 二次方程式迄 飯島正之助氏訳 代数教科書	代数 前期ノ続キ	代数 全級ノ統 終マデ	三 角 術 八線変化 対数表用法 トドハンター 小三角術	三 角 術 八線変化 対数表用法 トドハンター 大三角術	方程式論 大意		
							幾何 平面 菊池大麓氏著 初等幾何教科書	幾何 前期ノ続キ	幾何 立体 ショーブネー 幾何学	幾何 前期ノ続キ	解析幾何 円錐曲線法 バックル、 コニック、 セクションス	微積分学 大意		

誰でも入門できるわけではない

入門時には保証人が必要

長善館に入門したいといっても、誰でも入門できる訳ではない。

入門する際には、本人の意思やお金だけでなく、親や親族の保証人が必要で、入門以降も、保証人を立てているという覚悟と実績が求められる。

入門時に保証人を求めることは、当時としては非常に珍しいことだったが、現代の大学の入学の制度にも通じる画期的な制度だった。



門下生を取り巻く不思議な縁

陸羯南
(くがかつなん)
1857(安政4)年～
1907(明治40)年
青森県弘前市
日本新聞社社長



日本新聞社

正岡子規
(まさおかしき)
1867(慶応3)年～1902(明治35)年



桂湖村
(かつらこそん)
1868(明治元)年～
1938(昭和13)年
新潟市秋葉区

1892(明治25)入社し、
漢詩文欄の担当となる
「良寛詩集」を贈る

次女鶴代と結婚

俳句和歌を指導

日本新聞社に1892(明治25)年12月に入社し、
俳句欄の担当となる



小柳司気太
(おやなぎしげた)
1870(明治3)年～
1940(昭和15)年
新潟市西蒲区中之口

学長に就任

大東文化学院

鈴木虎雄
(すずきとらお)
1878(明治11)年～
1963(昭和38)年
燕市粟生津



桂湖村の紹介で
1901(明治34)年入社
晩年の子規と交流する
子規の没後和歌の選者となる

共著作業

諸橋徹次
(もろはしてつじ)
1883(明治11)年～
1962(昭和38)年
三条市下田



大学院生が大漢和辞典の編集に
協力した

東京高等師範学校で漢文学などを
教える

「玉磨かざれば光無し」

柿園先生が父の生家、片貝で療養しているおりに、死の床にありながら昇級試験に失敗した塾生に奮起を促し激励する手紙の言葉です。

厳しい中にも教師として温かい愛情のこめられた手紙です。

一度や二度の落第に失望してはならない。

梅の花が百花に先駆けて咲くのは冬の寒さに耐えて来たからである。また松の樹が亭々と空にそびえているのは、重たい雪や厳しい霜をしのいだからである。

諸君、学業を怠らなければ、愚者も賢者になることができる。努力しなければ英才も愚鈍になってしまう。玉磨かざれば光無しというではないか。私が諸君を見るに各々それぞれに長所がある。決して自らを卑下してはならない。

お知らせ① もっと知りたい方は「燕市長善館史料館」へ！

- 開館時間 午前9時～午後4時30分
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
- 入館料 小・中学生、高校生 50円
一般 100円
- 展示品 長善館ゆかりの品や鈴木虎雄博士の遺品
全国で3番目の大きさの米納津隕石の模型
市の貴重な文化資料 など



お知らせ② 長善館PR動画公開中！！

長善館を紹介するPR動画が完成しました。創設者鈴木文臺はじめ歴代館主の教育観や各方面で活躍した門下生などを判りやすく紹介しています！

➤内容

元NHKアナウンサー国井雅比古氏によるナビゲーション形式を採用し、地元の高校生などの主演で、当時の授業風景の再現映像も盛り込み、臨場感のある演出をしています。

歴代館主の教育方針、授業の方法、門下生の活躍ぶりなどをメインに構成しています。2022年に通水100年を迎える大河津分水の建設には門下生が大きく尽力していることなども盛り込んでいます。

➤制作 燕市 燕市教育委員会

➤監修 燕市長善館史料館

➤URL <https://youtu.be/PqxQY40FU8>

※「長善館 動画」で検索ください。



第18回全国地域映像コンクール(NPO法人地域文化アーカイブス主催)において、「梶原拓記念奨励賞」を受賞しました！



お知らせ③ 『日記で読む長善館』を刊行！！！！



2代館主暢軒は19歳(1854(安政元)年)の元旦から61歳で亡くなるまで日記をつけていました。この日記を筑波大学中野目徹教授、田中友香理助教授と燕市教育委員会の共同事業として整理し、目録とした『日記で読む長善館』を4月より刊行しました。

お求めの方は、長善館史料館、図書館で頒布しています！

その他、長善館史料館では様々な関連図書を頒布しています。

- 『みんなの読み物 長善館』 300円
- 『越北の鴻都 長善館』 100円
- 『長善館ものがたり(第2版)』 400円
- 『長善館史料館所蔵目録』 1,000円
- 『日記で読む長善館』 2,000円

お知らせ④ 長善館友の会入会募集中！！！！

長善館の功績を多くの方に理解していただき、その精神を後世に伝えるため、2017年9月30日に「長善館友の会」を設立しました。長善館をよく知るための研修会や会報の発行などを行っています。

みなさんも長善館のことをもっと知り、未来に向けた支援に取り組んでみませんか。

- 募集対象 市内外問わず、どなたでも入会可
- 入会方法 申込書に必要事項を記入し、年会費を添えて申込先に提出
- 年会費 個人会員 500円
事業所会員 1,000円
- 会員特典 長善館に関連した事業の案内
長善館史料館入館優待券の交付
- 申込先 燕市長善館史料館
(電話 0256-93-5400)
燕市社会教育課文化振興係
(電話 0256-63-7002)
- 申込期間 随時

募集対象

市内外を問わず、どなたでも入会できます。

入会方法

長善館友の会入会申込書に必要事項を記入し、年会費を添えて申込先に提出してください。

年会費

個人会員 500円 事業所会員 1,000円

会員特典

- 長善館に
- 長善館史料館入館優待券
- 企画展・特別展への招待

申込先

- 燕市長善館史料館
- 燕市社会教育課文化振興係 (燕市総合文化センター内)

申込期間

随時行っています。

このチラシに関するお問い合わせは、

- 燕市長善館史料館 ※休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）
(〒959-0227 新潟県燕市粟生津97番地 電話 0256-93-5400)
- 燕市教育委員会 社会教育課文化振興係 (燕市総合文化センター内)
(〒959-1262 新潟県燕市水道町1丁目3番28号 電話：0256-63-7002)

江戸時代後期に鈴木文意によって創設された私塾。門人が学び、多くの人たちから愛されました。伝えるには特定の個人や地域だけでは負担が大きくなるとも、みなさんも長善館友の会に入会し、会員としてけた支援に取り組んでみませんか！

長善館友の会 入会募集中！！

100年の歴史の中で千人を超える残してきた多くの功績を、後世に残してきます。重要な存在はますます重要になります。とよく知るとともに、その未来に向

入会募集中！！

ご清聴ありがとうございました。